

“これからの環境共生適合人を育てたい”



姫路工業大学

学長 白子忠男

Tadao Hakushi

近く発足する環境人間学部の設置趣旨をご披露したい。

地球に生きる環境を形成してきた人類は、森羅万象と共に宇宙船地球号のクルーであることを自覚し、今その船が激浪の中に突入しようとしているかの認識を強いられている。

人間は、古来衣食住の環境を創成し、手段道具を順次進化させて自らの快適性を欲望し続けてきた。そして生活環境を整備し、政治や経済や社会の各システム環境を構築し、精神文明を発達させて豊かな文化環境を形成した。これら生活・社会・文化の諸環境は互いに相関的に影響を与えながら人間にとっての原環境(自然)というべき地球を変容させつつある。

近代科学技術文明が興って数世紀を経た現在、人間の活動容量は飛躍的に増大し人間による原環境の変容が地球の環境容量にとって無視できないほどの大きさに達し、それが世界情勢を不安定にする要因にもなっている。

地球の温暖化、オゾン層の破壊、砂漠の拡大、人口爆発等を巡って、各種の国際会議でも真剣に討議されているが、利害の対立を呼ぶなどの困難に遭遇している状況で、今や地球環境を人間だけのものと考えすることは許されなく、地球の環境容量は逼迫状態にあると言わざるを得ない。

わが国は、前世紀末から欧米より近代文明に基づく諸技術・諸制度を取り入れて発展に努めてきたが第二次大戦で壊滅的打撃を受けその蓄積の大半を喪失したけれども、その後の半世紀にわたる英知の結集と先端技術の開発等により世界史に残る工業立国に成功した。その反面、高度成長に伴う産業系民生系環境汚染を引き起こし、また利便な社会システムを追求するあまり自然破壊をももたらし、近代文明享受に潜む環境の危機に直面している今、地球に優しい人間精神と価値観の転換期に入ったと言えよう。

そこで、新しい生活の在り方を研究し、新しい社会システムの構築を志す創造的な人材を育成しなければならない。私共は、近代科学技術文化の状況を学ぶ傍ら諸界でのフィールドワークを体験して新時代の生産・生活の在り方を研鑽し、地球における共生を大前提としての人類の平和的存続な環境を創出する寛容にして勇氣あり、社会システムの運用に必須な情報活用能力を長け、異文化・異分野とのコミュニケーション能力に秀でて、地球愛に富んだ環境適合性若人たちを輩出して、ご期待に添いたいと念願している。

是非ご声援とご支持を乞うところである。